



記者発表資料
 平成22年12月10日
 横浜新都市交通株式会社
 総務課長 御代川邦博
 045(787)7002

平成22年度 シーサイドラインの中間決算

シーサイドラインを運営する横浜新都市交通株式会社(代表取締役社長 太田 浩雄)の平成22年度中間決算を報告いたします。

1. 決算の概要

営業収入は、景気の先行きが不透明であったこと、猛暑による出控えなどの影響により、定期外旅客人員が減少したことなどから前年度を下回る19億66百万円となりましたが、人件費・修繕工事費などの経費の削減により、22年度上期の営業利益は6億63百万円、中間純利益は4億54百万円となりました。

また、債務超過額については、平成22年3月末で14億70百万円ありましたが、横浜市への第三者割当による増資および中間純利益4億54百万円を計上したことにより、平成5年度から続いた債務超過は解消されました。

(単位：百万円、単位未満切捨て)

	平成22年度(上期)	平成21年度(上期)	増減 (率)
営業収入	1,966	2,028	△62 (△3.1%)
営業費用	1,302	1,382	△80 (△5.8%)
営業利益	663	645	17 (2.8%)
経常利益	615	582	33 (5.8%)
中間純利益	454	399	55 (13.9%)

2. 上期の主な取組み

- (1) 安全対策 ☆電車線交換
- (2) サービス向上 ☆新杉田駅トイレ新設 ☆オフタイム回数券導入
- (3) 増収対策 ☆駐車場増設(八景島駅)

3. 旅客人員の状況

22年度上期の旅客人員は、景気の先行きが不透明であったこと、猛暑による出控えなどの影響により、定期外の旅客人員が前年同期と比較し22万3千人(4.6%)減少しましたが、定期につきましては、ほぼ前年同期並みに推移したことから合計で前年同期に比べ25万5千人(2.7%)減となっております。

(単位：千人、単位未満切捨て)

	平成22年度(上期)	平成21年度(上期)	増減 (率)
旅客人員	9,169	9,425	△255 (△2.7%)

平成22年度収支の見通し

22年度(通年)収支の見通しは、今だ景気の先行きが不透明であることから、需要の減少が見込まれていますが、引き続き経費および人件費の圧縮等に取り組むことにより前期並みの利益を確保するよう、より一層の経営改善に努めてまいります。